

Osmo 実践報告書

記入日：令和5年 10月 23日

学校名	八王子市立第八小学校
氏名	川上 尚司先生

■モニター利用について

利用した Osmo の種類と個数	ジーニアスキット（個人所有でコーディングキット）
学年	1, 2年生（特別支援教室利用児童）
人数	2名
実施期間	令和5年9月（1カ月）
授業時数	各4回
学習指導要項における項目	自立活動 4-5(「環境の把握」認知や行動の手掛かりとなる概念形成)、5-1(「身体の動き」姿勢と運動・動作の基本的技能)
単元名	見る練習、手先の練習
育てたい力	試行錯誤、形の認識、輪郭の把握、
授業の目的	形を正しく認識し、整った字を書ける力を育てる。 試行錯誤できる力を育てる。

■授業の展開

--	--

学習活動	特別支援教室（通級）の個別指導内、ビジョントレーニングや手先の巧緻性を高める活動の一つとして毎回タングラムを実施している。
授業内容	ジーニアスキットの「タングラムセット」を用いて、与えられた課題に挑戦していく。コーディングキットは論理的思考力を高め、楽しみながら試行錯誤し、達成感を味わわせる目的で実施した。
児童の学習の様子	タングラムは、たまたま形を回転した時に正解すると、画面にそれが認識されてハマるので、教師側から助言した場合より「自分の力で正解した」達成感が強く、自己肯定感と意欲を引き出しやすかった。コーディングキットは6, 7年前から使っている。言葉に頼らない論理的思考力を養い、試行錯誤できる力を伸ばすことができると感じる。

■まとめ

成果	前述した通り、タングラムは偶然正しく置いたピースが正解と表示されることで、教員が助言するよりも子どもたちの意欲を引き出しやすいつ感じられた。実物を使って助言するよりも、ピースの向きを自分で様々な方向に回転させており、アプリの長所がうまく子どもたちのやる気を引き出していると感じられた。逆に、これを使っても活動を楽しむことができない児童はこの活動で別のアプローチ、課題があると判断できるのではないかと思う。
課題	市で貸与されているiPadはネット接続ができず、簡単にアプリをインストールすることができない。指導用に個人で用意したものでこれらの活動を行わなければならないのが難点である。
児童の変容	間違いを恐れず、積極的に活動できるようになったことが最も大きな変化である。

